

令和３年度奈良県循環型社会推進協議会 議事概要

○開催日時

令和４年２月１８日（金）１４時００分～

○開催場所

Web 会議

○出席委員

藤田香委員、森本委員、藤田有紀子委員、桐山委員、大塚委員、帯谷委員、二神委員、松岡委員、土井委員、森委員、松本委員、鈴木委員

○議 事

- ・奈良県リサイクル認定製品の審査について
- ・「わたしのプラスチックごみ削減アイデア」の審査について
- ・奈良県廃棄物処理計画の進捗について

○議事概要

【森本委員長】

次第に沿ってまず議題の１番目といたしまして、奈良県リサイクル認定製品の審査について、事務局の担当の方から説明をお願いします。

【事務局】

資料１、別紙１～５、参考資料１により説明

（別紙１～５については、事業者に関する情報を含むため非公開）

【森本委員長】

ありがとうございました。

ただいま説明がありました申請製品につきまして、ご意見とかご質問、伺いたいと思います。

（奈良県リサイクル認定製品に関する質問・意見等は、事業者に関する情報を含むため非公開）

【森本委員長】

それでは、事務局から説明いただいた新規含めた 32 製品について、全て認定ということ
でよろしいでしょうか。

(その他、意見、異議なし)

【森本委員長】

そうしましたら 32 製品すべてを今回認定ということといたします。

【森本委員長】

続きまして議題の 2 番目「私のプラスチックごみ削減アイデア」の審査について、事務局
の方からご説明いただきますよろしくお願いします。

【事務局】

資料 2-1、2-2 及び参考資料 2 により説明

(資料 2-2 は表彰に関する内容のため非公開)

【森本委員長】

ただいま説明のありました内容について、ご意見ご質問等あればご発言ください。

(わたしのプラスチックごみ削減アイデアに関する質問・意見等は、表彰に関する情報を含
むため非公開)

【森本委員長】

各委員、次の実施に向けて、どうすれば良いかっていうようなご意見がいただけたと思
います。色々意見いただきましたが、事務局提案でよろしいでしょうか。

(その他、意見、異議なし)

【森本委員長】

そうしましたら 2 つ目の議題は、ここまでといたします。

【森本委員長】

続きまして議題の 3 つ目ですが、奈良県廃棄物処理計画の進捗状況について事務局から
説明をいただきます。

【事務局】

資料3により説明

【森本委員長】

ただいま説明のありました内容につきまして、皆さんからのご意見やご質問など、お伺いいたします。いかがでしょうか。

【帯谷委員】

廃棄物を減らすっていう取り組みは非常に重要なことだと思うんですけど、廃棄物を減らしていく、ゼロにする。というですね究極の目的に向かってはね、やっぱり3Rっていうのが一番大事であってですね、その一番は私はリユースだと思います。

できるだけリユースしていくっていう制度。システムを作っていく。

どうしてもリユースできないのは、リサイクルにまわしていくと、その辺をもうちょっとこの、目次の中の、2番の廃棄物の循環的利用の促進の中で、リサイクルの促進と出てますけどね。奈良県の中でリユースに対する取り組みというのは全然感じてこない。もったものを捨てず使っていくと。例えば読売新聞の今年の1月25日の朝刊で、京都市で地域力というところで地域住民らが廃校になった小学校を利用して、国連提唱のSDGsを実践する活動を始めた。不用品再生をやっているといった内容とかですね。去年の7月26日の夕刊でも、徳島ゴミゼロ徳島から発信。リユースをメインでいろんなことを考えている。或いは、去年の9月27日の新聞ですけども、四国の松山市民の、この廃棄物ごみの量が全国で2番目に少ないと。人口50万人以上の都市ですから大きいんですけど、少ない。

もっと行政が本気でリユースをするようなことを考えていって欲しいなと常々思ってるんですけどね。私、この公募委員に申請する時にも、紙を書きましたけどね。例えば、こういう、京都市の地域力、これを見てね。公共の施設の使っていないところの場所を使つてね、我々みたいな、いわゆる卒業をした、現役でない人の持っている技術を使つて、市民から県民から出てくるんですね。例えば、家具とか自転車とか、いろんなものを捨てない、大型ごみにしない燃やさない埋めない。それをですね、リユースするために、そういう場所に集めて、その人々の、培ってきた技術力を生かしてですね、皆さん、県民市民に使ってもらおう。

この廃棄物減らす中で、リサイクル以前にリユースっていうのをもうちょっと、私個人としては真剣にやっぱり、取り組んで欲しいなあという気がしてならないんですよ。そういうことで、もし、何かあったらお手伝いできたらと思ってますけども、考えてみて欲しいなと思います。

【二神委員】

捨てたらごみで再利用したら資源というふうなことが、考えられると思うんですけど、経済産業協会の中でも、なかなか難しいんですけどせめてもの取り組みで、各協会の、例え

ばコーヒーのかすだとか、梱包剤とか袋とか箱とかパレットとか、そういったものの再利用を目指して、我々のホームページでPRをして、再活用を促進するというふうな取り組みもしております。

ウィンウィンの関係を取れたらいいんですけどなかなかこれ、まとまらないんですけど、それでも、せめてそんなことでもしたらいいなと思って取り組んでおりますので、ご紹介をさせていただきます。以上です。

【森本委員長】

ありがとうございました。

地域全体で取り組んでいくということでは、県のそれぞれ研究施設とかがあろうかなと思うんですけども、この資料の中にもですね、6ページのところに公設試験機関の研究開発のこれまでやってきたことが書かれてるんですけど、最近あんまり取り組みがなされていないように感じるのですが、研究機関が実施する事業の優先順位が下がっているのか。取り組みの効果が薄いと感じていて、取り組みがなされていないのかどうでしょうか。

【事務局】

この現在の我々の循環型社会、県政の推進に向けては、当然全く帯谷委員のおっしゃる通り、リユース、リデュース、リサイクル。が基本になっておって、それぞれの推進育成ための取り組みを進めていく中で、特に、やっぱり捨てないことが、1番というのは重々、承知しておるんで今後とも、委員の皆様のご意見を反映した形で、政策や計画に取り組んで参りたいと思っております。

それから今、ちょっとご質問いただいた一覧表の公的機関の取り組みについては、当課で拾いきれてないところがあるかもわかりませんので、もうちょっと幅広に調べて、使えるもの、どんな研究をしているかというところをもう少し深く掘り下げながら、役立てるものがあれば、ともにデータを活用するとか、施策の活用的な検討とか、ちょっと密に取り組んで参りたいと思います。

【森本委員長】

奈良県もいろいろ特産品があって、その中でいろいろと産業廃棄物なんかもたくさん出てきてその中の、有機性のもの、結構奈良でも、醸造やってる人、酒を作ってる人いろいろあるかなと。そういうところの粕ですよ。食品も食品工場もありましょうし、そういったもののやっぱりリサイクル技術、リユースの技術というのはやっぱり研究機関なんかで、研究されるといいかと思います。うちなんか柿ワイン、柿の関係のことで、県の方とか、連帯させてもらってますけども、そういうアイデアって多分出てくると思いますので、ぜひ前向きに取り組んでもらえたらと思います。

【土井委員】

今ご説明いただきました事業進捗対応の冊子の件なんですけれども、表紙めくった一番上の作成の趣旨を記載されているんですけども、令和4年度までの計画、全体に対する進捗を整理されてるんだと思うんですけども、こうして毎年度、協議会で報告するんであれば、多分今口頭でご説明された主な取り組み状況ということ。それが、いわゆる令和3年の直近における特徴的な取り組みなのかもわかりませんが、そういう年度ごとの取り組み状況と、こういったことは取り組めなかった。例えば、資料に書いてありますように、コロナの関係で、イベントはできませんでしたとか、そういうようなことはあるんでしょうけども、やはり、令和3年度においてどんな取り組みをして、結果内容、そういったものについて、どう、事務局側としては、評価、考えているかというようなところをまとめてですね、こういった毎年度の協議会に報告していただくのが、非常にわかりやすくていいのかなと思います。

ちょっと例えばこれ、5ページご覧いただけますか。5ページの、例えば、これ5ページの一番上の括弧2のところですけど、これ記載内容、見ていただきましたが、平成27年度は、4行目に平成29年度には、結構書いてありますね。

それ以降はどのように、何をされてるのか、取り組んでおられるかっていうのが、見えないんですよね。それと同じようなことが、その一つ下の(4)にもありますし、7ページの(2)にも同じようなことがあります。これ税事業ということで米印で記載されてるから、その時しかできなかったやらなかったという話なのかもわかりませんが、でも、この計画の進捗状況概要というようなことで、平成30年度からの、計画についての、進捗状況なんです。果たしてこういうこの書き方が本当にマッチしているのかなと。事前に送ってきていただいた時に、目を通して直感的に思いましたので、もし正しくは受けた印象が違ふのであれば、それを教えて欲しいですし、もしそうであれば、まさに次、令和4年度ですから、令和5年度にはまた新たな計画を策定されるというようなことですので、そのあとにもその実績の押さえ方っていうのをですね、しっかりともう一つは客観的、今、新しい直近データ、これ、記載されてると思いますけど、令和3年、今4年の段階で、令和元年度のデータしかない。令和2年度のデータしかないっていう。それぞれの分野部門でそうなっている実態を踏まえて、本当に新たな計画を作る時の目標値とか、そうしたものをどういうふうにしていくのかというようなこともですね、しっかりと整理を押さえないといけないと思います。どうも、いろんなやっтерことをかき集めて、記載をされてるのかなというふうに誤解されるのではないかなというふうに思いましたので、正直なところを意見として申し上げました。よろしくお願いします。

【森本委員長】

ありがとうございます。事務局の方から何かございますか。

【事務局】

今のご意見は、来年度、令和4年度に次期計画の策定に。ここにかかって参りますので、今のご意見を参考といたしまして、わかりやすく、わかりやすい計画にさせてもらいたいと思います。

その中でちょっと口頭にはなりますけども、令和3年度の活動の一部ではございますが、令和3年度、これにつきましてはやっぱり一般廃棄物プラスチックごみの削減というところで取り組みをいたしました。

その中でやっぱりプラスチックごみについてはやっぱり消費者レベルから、もっと周知啓発を行っていく必要があるということから、令和2年度から3年度にかけて、パンフレットを作成したり、そのパンフレットを今年につきましては、イオンモール郡山と、イオンモール橿原の方で、配布をし、クイズ形式のイベントなどを、盛り込みながら、県の職員が、みずから行って、啓発活動を2日の延べ4日間行ったところです。

それ以外として、奈良県としてはバーベキューごみについても結構問題化しておりましたので、これも職員等によりまして、天川村の方のキャンプ場をゴールデンウィークと盆休み期間中ですね、県の職員と、役場の職員の皆さんで、合同でパトロールを、をするという取り組みをして参りました。天川村さんの方からも、多少なりともごみが減ったというご報告もいただいておりますので、マナー向上に繋がったのではないかなと思います。

それからまた繰り返しになりますが、次期計画作成におきましてはデータの出典根拠をきちんと整理し、ただ一般廃棄物の全国的なデータ奈良県のデータというのはどうしても、結構遅れ気味になりますのでそのところも、きちんと説明を踏まえた上で、わかりやすい計画を作成して参りたいと思っております。以上でございます。

【土井委員】

色々やっておられるんだと思ひまして、そうしたことについて、先ほど新しい計画策定にあたっておっしゃいましたけれども、冒頭に申し上げましたように、毎年度こういう協議会をするのであれば、その際に、しっかりとその情報なり、流れというものを出示してくださいということを申し上げた上で、計画の見直しの際にはということをお願いしておりますので、そのあたりはしっかりと押さえていただきたいのと、今、冒頭で失礼しますというふうにおっしゃっていただきましたが、まさにそういったことを、参考資料としてですね、この協議会に出示していただく。そういったことをですね、ぜひ実行していただけたらなというふうに思ひますので、最後に要望させていただきます。

【森本委員長】

ありがとうございます。まとめ方の問題かなというふうには思ひます。

【鈴木委員】

ごみの減量につきまして、食品ロスとか、プラスチックごみの方が大きな課題と思うのですが、こういったものにつきまして、住民の皆さん市民の皆さんについては、市町村が周知啓発をしたり、一緒に取り組むというのが、市町村の役割とっております。

一方、過剰包装を減らしたりであるとか、あと商習慣、食料品の販売期限を見直すとか、そういうことにつきまして、物を出す側である、経営者の方とか、卸小売業の方とか、こういった方にも、ご協力いただくことが必要であると考えております。そういった、大きなものにつきましては、県、国にそういった団体との調整を期待しておりますが、県の立場でいかがでしょうか。

【事務局】

ご指摘の通り食品ロスとかの部分に関しましては、食品という問題でございます。それで賞味期限の問題それから、商習慣のところ、賞味期限前でも廃棄される食品等があるというのは、問題だというふうに認識しております。食品ロスに関しましては、豊かな農の推進振興部というところの方で、主に計画を食品ロス削減の計画等を担っております。

それは、やはり食品という性質上、食べ物は食べ物として、先ほどお話ししましたが、廃棄物にするのではなく、フードバンクの取り組みもされてる委員の方おられるように、食品は食品として、廃棄物ではなく、食品として新たな流通なりにしていただくというのが一番ベストだというふうに思っておりますので、そういうことで農の部門で今やっております。

その中では、静脈産業である廃棄物よりも、その製造部門、産業部門の方でのやはり取り組みっていうのが、まずは必要なことだというふうに認識しております。それは国、それから県というところが、一定役割を担っていないといけない部門だという認識をしておりますので、農の部門と連携をしながら、私どもでできる部分っていうのを、関係部門でできる部分はやっていきたいというふうに考えております。

【大塚委員】

ちょうど今食品ロスの話題になりましたんで、私が今、フードバンク奈良というNPOに所属して、活動しております。

この資料の2ページのちょうど下のところに食品の施策への対応ということで、これは消費者向けのリーフレット、豊かな食と農振興課の方で作られたものが載ってますけど、ちょうど、もう、約1週間ほど前に、同じくこれ、豊かな食の振興課さんの方から補助金いただきました、私どもの方で作った、パンフレットがございます。

これは主に事業者さん向けに作らしていただいたパンフレットでして、ちょうど今画面映していただけてますけど食品の3Rで、SDGsに貢献しようというのを、メインに謳っております。

まずリデュースということで食品廃棄物を減らすと。これについてはもう様々な企業さんの方で取り組んでおられると思います。

そうということで、ここでは、リユースについて、食品は食品のまんまで、フードバンクを使っていたら、上手に生かして使うことができますよと、いうことをうたわせてもらっています。

リサイクルも載せてますけども、家畜の飼料とか、そういうのに回す前に、とりあえずちょっとフードバンクの活用というのを、事業者さん考えてみてくださいというような主旨にしています。

それと同じく 2020 年度に、やっぱり県の方の補助金いただいて、食品ロスの県内の実情調査をやりました。この中で、やっぱり、まだまだ事業所の中での取り組みが不十分だというのがわかったのと、もう一つはやっぱりフードバンクというシステムとか、或いは奈良県では、フードバンクならば、こういう活動やってますと、いうことを、知っていただく必要があるだろうということで、今年度ちょっとこういう、パンフレット作らせていただきました。

次のページとかに載ってますけども、すでにフードバンクを上手に活用していただいて、これは流通業者さん代表で、奈良コープさんとか、それから食品、関係代表で、そういう商店さんとかそれから、食に関係のないところもですね、食品対象で、フードドライブ、で協力していただいたりとか、或いは防災用の備蓄食品が、ちょうどローリングストックで入れ替えの時期に、完全に消費期限がすぎるちょっと手前で、フードバンクを活用してもらうとかそういうようなことを紹介させてもらってます。あと、今度、集まった食品を、いろんな福祉施設であったり子供食堂さんとかに、無償で提供させてもらってるわけですけど、そういうところで、いただいてありがたいという、そういう感謝の言葉なんかも、載せさせていただいてますので、他の委員の皆さんのところでもですね、こういうのをちょっと関心あるということであれば、また、パンフレット、もうできあがってきた所ですので、活用していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それと質問ですが、2 ページのちょうど真ん中あたりにごみの排出量の、データというかグラフで、示していただいているんですけどこれが令和元年までしかないんです。実は、この時はまだコロナ、の直前でして、コロナが始まったのが令和 2 年度、3 年度で間もなく 4 年を迎えておさまってくればいいんですけども、ちょっと先行きはまだわからないんですけど、その辺でかなり例えば、テイクアウトが増えたりとか、デリバリーが増えたりとかいうことで、かなりごみの量が増えてきてるんじゃないかなと思うんですが、その辺のデータのなところですね。集計するのなかなか時間かかると思うんですけどなんか、速報値とか推計値みたいなんで構わないんですけど何かデータお持ちであれば、教えていただけないかなと思います。

【事務局】

全国データの方の最新が、本資料に記載させていただいてます令和元年度のデータとして現在令和2年度のデータを各市町村を初め、取りまとめる最中でございます。

速報値なのでまだ公表前の数値になってますけれども、1人当たりでいきますと1人1日当たりのグラムはおっしゃられた通り、若干同7グラムほど増、令和2年度の速報値ではなってますのでやはりそういったコロナによる巣ごもりじゃないですけども家庭からのごみっていう部分は、増加してるのが速報値の方では確認されてます。

令和2年度の最新データの公表につきましては、令和4年4月に国の方が、全国含めまして各都道府県の値も含めて公表される予定となっております。

【帯谷委員】

こだわって申し訳ないんですけども、資料3の2、2-1の各種リユースリサイクルのところなんですけども、ここも、平成27年度から、個別具体的な事業の推進を図るためどうこのように書いてますよね。

実際、リユースにこだわって申し訳ないですが、何か県として利用者の対象商品を決めて、この3年度まで実績あったんですかね計画が推進してるんでしょうか。具体的に何かそういう、プロジェクトを作った、動いているとか或いはこういう実績ができた。こういうものをリユースの対象に選んだと。県民に徹底したとか、促進と、各種リユースリサイクル促進と書いてるけど、具体的に何やったのか。研修だけしました。それだけですか。実績あるとか計画が具体的に動いているとかないですかね。その辺をまず教えてください。

【事務局】

県の方といたしましてはこちらに書いてありますように、市町村等との研修を受け、会議等ということで、ところで、個別に商品を設定してとか、ということの取り組みは当課の方では、県としては、現在のところないというのが現状でございます。以上でございます。

【帯谷委員】

今まで何も無いのですか。ということはただ文言をあげて研修ただけで終わってるんですね。行動は伴っていないと。

【事務局】

ごみ処理の枠組みなんですけれども、一般廃棄物の処理っていうのは一義的に市町村の事務となっております。それで、県は一般廃棄物の処理という部分についてはある意味後方支援回る部分がございます。そういう、市町村と県との役割分担という部分がベースにありまして、そういう意味で、市町村の間での情報共有の場を県の方で、持たせていただくというふうなところが、役割としてありますので、直接的にそのごみの例えば、分別の区分をこうしろああしろという話については、やはり市町村さんが主体的にご判断される部分でござ

ざいますので、そういうところの研修会っていう話になっております。

【帯谷委員】

ちょっと言っている趣旨が違いますよ。市町村がごみの処理やるのはよくわかってますよ、そんなこと言ってるんじゃないじゃないですよ。

リユースとして何か具体的な実績ありますか計画ありますか。平成 27 年度から 3R の個別のどうのこうの会で、専門研修を実施しましたというふうな古いことしか書いてないでしょ。今までの間に令和 3 年度、間もなく終わりますけど隙間、令和 2 年までに何か実績あったんですか、計画推進中なんですかということをお聞きしてるんですよ。何か具体的にやっておられます。ごみの廃棄物処理やごみの焼却を聞いてるんじゃないですよ。

【事務局】

このお話をさせていただいている今、中身っていうのは、焼却だけをとらまえて、研修会をしてるわけではございません。あくまで、3R の促進のための手法としてどういうものがあるのかということを、市町村と一緒に考えているということでございます。

【帯谷委員】

リユースで何か具体的に実績なり計画はありますかって聞いているんです。全体はきっと前でやって、最終的にゼロエミッションほぼ持っていこうということはわかりますよ。でもその中の 3R のリサイクルじゃなくてリユースで何か、ありませんかっていうことです。計画とか具体的な実績とか、その分だけプラマイでやってるとそんなこと言ってません。その部分だけの報告ないんですか。

【事務局】

趣旨がちょっと理解できてない部分があるんですけど、帯谷委員がおっしゃるリユースの具体的な計画とか実績というのはどんなことをイメージされておられますか。

【帯谷委員】

いや、先ほども言ったでしょ。よその都道府県市町村ではこういう具体的な推進をしてるようなことまで、新聞記事もいろいろできますよということを言ってるでしょ。だから具体的に県としては何かそういう動きでもやっておるんですか、っていうことですよ。3R と書かれているじゃないですか。

【事務局】

お話の向きはそのリユースに関してということだと思うんです、それ先ほどお話があったのは、京都市さんとかの取り組み、だったように思うんですけど。

それで、ただ都道府県レベルの取り組みで、何かお話の動きってあるんでしょうか。

【帯谷委員】

いや、だから、そういうね、いろいろな情報が、これはもう私は読売新聞の一部しか知りませんけれども、いろいろな新聞もあるでしょうし、ニュース報道もあるでしょうから、県として、その3ある中のリユースとして何か取り組んでる具体的なことはありますか、或いは実績ありますかということをお聞きしてるだけ。それだけやりなさいと言ってません。さあ、全然やったらいいんですけどね。何も見えてこないからお聞きしてるんです。

【森本委員長】

多分帯谷委員の言われてるようなことは例えば生駒市だと、陶器市みたいな形で不要になった食器なんかを持ち寄って、来た人が必要なものをまた持って帰るみたいなイベントがたまにあったりするんですけども、多分そういうようなイベントを県として何かこう、取り組まれたことがありますかということだと思っんですね。

多分県なので、大体はその市町村が個別にされてるのを俯瞰してるのが県の立場かなとは思っんですけども。県としてそういう市町村に今一声、こういうようなことを、各市町村にされたらどうですかというようなアクションを起こすとかですね、さっきちょっと新聞記事で紹介いただきましたけども、廃校利用なんかの、とうことだと例えば廃校になったものを企業に払い下げるとかもリユースの一つかなと思っんで、そういうものを積極的に促進したとか、山添村の何か廃校をどっかの企業さんに、渡したりありましたね。そういうのも1つのニュースかなと思っんですけどね。

多分、質問の内容としてはそういうことかなと思っんですが。

【帯谷委員】

県として具体的に、この平成27年度から3Rを掲げられて、今日までやってきた中でね、そういう実績上がったものがありますか或いは取り組んでるようなことがありますかってご紹介をお願いしたい。ないですはないで仕方ない。

【事務局】

私の方で先ほどごみ処理という部分ではですね、3Rも含めて、実際に、一般家庭から出ましたごみをリサイクル、リユース、3Rするっていう役割は、市町村の役割でございます。そういうことで、直接的に先ほど帯谷様からお話もありました。リユースをする場所の提供、桜井市さんとかであれば、ごみ処理焼却施設の近くで、月1回程度ですね、リサイクル品を受け渡しできるような場を設定されたり、樫原さんも同じような場所を持っておられたりしております。

ただ、県は、一般廃棄物の処理を担う立場にありませんので、そのような直接的にそうい

う受け渡しをする場所であったり、直接的にリユースをするというふうな役割にありませんので、実際、直接的なそういう話はしておりませんが、先ほど森本委員長からお話もありましたように、市町村に働きかけをするために、各市町村にお集まりいただいて新たな3Rの手法であったり、そういう技術、情報を提供して、一緒に問題点とかをどういうふうに解決していく方策があるかという、そういう場を設けて一緒に考えているというのが役割でございます。

【帯谷委員】

わかりました。

【森本委員長】

ありがとうございます。

いろいろとお話、ご意見いただきましてこれは参考にして、次、第5次ですかね。計画案に盛り込んでいくというような形になろうかなと思います。

そうしましたらまだご意見あるかもしれませんが、そろそろ時間になってきましたので、この辺あたりでよろしいでしょうか。ということで、今日はですね3つの議題について皆さんにご意見とあと、承認いただきました。議事3つに関しては、これで終了いたします。

以降の進行は事務局の方に戻したいと思いますよろしくお願いします。

【事務局】

森本委員長ありがとうございます。

それでは本日予定しておりました、審議事項はすべて終了いたしました。

本日は、いろんな貴重なご意見いただきましてありがとうございました。

それでは以上をもちまして、令和3年度奈良県循環型社会推進協議会を終了させていただきます。本日はどうも、ありがとうございました。